

経営史応用研究
シラバス
(修正版)

講義スケジュール・概要

・第1回(1月13日)

【前半：ガイダンス，経営史とは？】

経営史とはどのような学問であるのかを説明します。単に歴史の対象に企業やその経営活動を取り上げるだけなのではないでしょうか？経営史の創始者 N・S・B・グラースは何を意図していたのでしょうか？

【後半：明治の企業家たち】

明治時代，東京と大阪には，新時代のビジネス・チャンスをつかもうと企業家たちが躍動していました。彼らは，どのような人々であったのか，何を成したのか，いくつかの類型に分けてみていくことにします。また彼らの企業家活動を支えるものとは何だったのかについても考えます。現代日本は他国に比べると起業家が少ないともいわれますが，明治期と比べて時，どのようなことがみえてくるのでしょうか？

・第2回(1月20日)

【前半：近代産業経営の成立】

近代産業の代表例として紡績業を取り上げ，技術と経営の2つの面から発展過程を探ることにします。前者では，「中間技術」「適正技術」の視点から近代技術の移植を捉える必要があります。後者では，若年女性労働者を多用した紡績業の労務管理をみていきます。近代産業が発展を遂げていくには，マネジメントの力が必要でした。

【後半：財閥の多角化と組織】

A・D・チャンドラーの「組織は戦略に従う」という命題があります。日本のビッグビジネスの代表格である財閥についても，この命題は成り立つのでしょうか？また，チャンドラーがいう経営者資本主義は，財閥経営でどのように実現されたのでしょうか？三菱や三井といった財閥の他に，神戸にあった鈴木商店も取り上げてみたいと思います。

・第3回(1月27日)

【前半：技術経営の誕生】

技術進歩の早い電気機械工業では，外国企業と提携して技術開発能力を高めようとする動きがありました。外国企業の国際経営戦略に関連するものでもあったため，戦前のグローバル化と合わせて明らかにします。また，関連として，戦前の日本企業の国際経営についても，本当に帝国主義的に考えてよいのか再検討します。

【後半：日本的人事管理とサラリーマンの誕生】

第1次世界大戦頃から，サラリーマンといわれる人々が登場するようになりました。その登場の背景には，希少なスキルをもった人材をいかに獲得し，長く働いてもらうかを考え

る日本企業の人事管理がありました。そのような人事管理を明らかにします。加えて、日本の実業教育制度と高等教育制度の変遷も追うことにします。

・第4回（2月3日）

【前半：都市型ビジネスの成立】

産業社会化と都市化は、新しいビジネス・チャンスをもたらしました。それまでの日本にない新製品や新サービスを提供する都市型ビジネスを手がける企業家たちは、どのような方法で市場を切り開いたのか？電鉄業と食品工業を取り上げることにします。両大戦間期に現れた大衆消費社会とはどのようなものでしょうか？

【後半：重化学工業化と新興コンツェルン】

第1次世界大戦以降、重化学工業化が進展していきます。電力業に牽引される形で電気機械工業、電気化学工業、電気精錬業などが成長を遂げます。リスクを取ることを恐れず新産業の勃興に賭けた企業家たちの活動と、コンツェルンの形成過程を追います。また、戦争と企業活動についても何らかの形で取り上げたいと思っています。

・第5回（2月10日）

【前半：経済民主化】

財閥解体、労働民主化、農地改革の3つからなる経済民主化は、戦後の社会経済に大きな変化をもたらしました。連続説と断絶説で見方が違うことにもなりますが、連続と断絶のバランスの中で捉えるとよいのではないかと考えます。戦後の経営史に入っていくに際して、戦後日本経済の出発点からみつめ直します。

【後半：日本的生産システムの形成】

日本的生産システムの代表としてトヨタ生産システムを取り上げます。トヨタ生産システムが形成されるまでには、日本の技術者たちの様々な試行錯誤の痕跡がみられます。戦時期の航空機生産に限らず、明治期の紡績業の生産システム構築の挑戦にまで遡ります。アメリカとは違った歩みをみせた日本の生産システム形成の歴史を明らかにします。

・第6回（2月24日）

【前半：大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展】

高度経済成長期、大量生産と大量販売を結びつけて総合家電メーカーを目指した企業家もいれば、独創的な商品を創り出し、新市場を開拓する企業家もいました。しかし、その中には、優れた技術をもちながらも、それを生かせず競争から落伍していく企業もありました。それら企業の競争を明らかにします。

【後半：流通のイノベーション】

林周二の『流通革命』で主張された点は、高度経済成長期にスーパーが台頭する中で実現されたのでしょうか？スーパーの成長過程では、伝統的な流通機構や大手メーカーとの対立もみられました。このスーパーに次いで、コンビニエンス・ストアが登場し、新たな主役として成長していくことになります。流通・小売業の変革をみていきます。

・第7回（3月3日）

【前半：企業集団とメインバンク，日本的経営とその変容】

戦後の企業金融は，間接金融を中心に展開していきます。銀行は，単にお金を貸す以上の役割を果たすようになります。戦後のメインバンク・システムはどのような機能をもっていたのでしょうか？残りの時間では，日本経済のパフォーマンスとともに評価が大きく変化した日本の経営の歴史を振り返ります。

【後半：社史，企業史料，産業遺産】

経営史研究で用いる史料には，社史，企業史料，産業遺産があります。このような史料がもつ価値と意義を正しく理解してもらい，史料を利用する側と，史料を作る側・残す側の相互理解が進めばよいと考えます。最後の時間となるので，できれば皆さんが考える社史の価値や利用可能性などを発表してもらえればと思っています。

・第8回（3月10日）

【期末試験】

教科書・参考書

・教科書

特に指定しません

・参考文献

- ・宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史 江戸時代から 21世紀へ』新版，有斐閣，2007年。
- ・経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣，2004年。
- ・経営史学会編『外国経営史の基礎知識』有斐閣，2005年。

成績評価

- ・期末試験：100%
- ・最終日に実施（60分を予定）
- ・持ち込み可
 - ・講義資料（BEEFにアップロードしたもの）
 - ・手書きのメモ・ノート類